

(5) 2012年(平成24年)7月25日(水曜日)

「追憶のハワイ〜バアバの青春奮闘記〜」

高度経済成長に日本が沸いた60年代、ハワイへ転校した山形・鶴岡の少女。青春真ったただ中の多感な時期に触れた、豊かな食の思い出——今も昔も日本人のあこがれであるハワイの食の思い出などをつづった「追憶のハワイ〜バアバの青春奮闘記〜」(熊谷めぐみ著)が15日、星雲社から発売された。当時14歳の著者が初めて出会う異国文化、人との触れ合い、そして「忘れられない味」。渴いた喉に染み渡った冷えたパイナップルや「アメリカのおふくろの味」ローストターキーなど、当時のハワイの食文

パイナップル・刺し身・ローストターキーなど 60年代ハワイ・食の思い出つづる

—— 熊谷めぐみ著／星雲社から発売 ——

化が垣間見られる印象的な一冊だ。

同書では日本が国際化の波にもまれた60年代、多感な時期を過ごした著者がハ



どすべてがリアルで自由な視点で描かれており、読み手の感情移入を誘う。

中でも第10章「ハワイの忘れられない味」では、当時のハワイにおける食の魅力を感じることができるはず。畑のおじさんが惜しげもなく振る舞ってくれた、鮮やかな黄色のパイナップル。太平洋の真ん中にあるハワイだからこそ味わえる新鮮なマグロの刺し身。各家庭で味が微妙に異なるメーロイドンハワイのローストターキー。いずれも古き良きハワイの魅力を実感する、少しセンチな魅力がぎゅっと詰まっている。

著者は1950年に仙台に生まれ、鶴岡市の小学校を経てハワイで5年間の生活を経験。73年国際基督教大学を卒業後、伊藤忠商事へ入社、退職後は17年間英語教育に携わる。その後、うつ病の経験・克服を経てCD発表など多彩な社会活動を行っている。

ワイで多様な経験を積み、多くの人との出会いの中で感じたことを「思うがまま」に記している。全20章の構成の中で、新生活の戸惑いやカルチャーショックの中の成長、初恋の思い出な

定価本体1000円＋税、フイットソーリュション発行、四六判カバー。